

英語が苦手です。聞き流す何とかラーニングという学習法にも挑戦しました。結果は、三日坊主ではないけれど、一ヶ月は続かなかった。と書いて、なぜ「三日坊主」と言うのだろう。坊主に対して失礼な！と思って調べて見たけれど、語源はわかりません。語源は不明ですが、三日坊主でなく根気よく勉強して、流ちょうに英語をあやつる友達の坊主をみると憧れますし、最近のスポーツ選手は格好いいですね。サッカーの本田選手やテニスの錦織選手は、我々の英語恐怖症を払いぬぐってくれます。

さて、近現代の日本人でいちばん格好良く英語を使ったのは誰だろう、と考えてみます。誰もが思っていた一人に、白洲次郎（1902〜1985）がいるでしょうか。白洲次郎は戦前戦後の官僚であり実業家でした。歴史の表に出ることのなかった黒子に、光りをあてたのは、2009年に放映された、NHKのドラマです。その中でこんなシーンがありました。昭和20年の敗戦後のことです。占領軍のアメリカ人将校が白洲に言います。

「君の英語はうまいね」

白洲がこたえます。

「閣下の英語ももっと勉強したら上達しますよ」

英語を母国語とする人への痛快な一撃です。

ところで、次郎の妻は白洲正子（1910〜



見つけた！

1998）です。正子は薩摩藩出身の伯爵家に生まれ、大正13年にアメリカ留学と華麗な経歴の持ち主ですが、随筆家・美術品の収集家としても有名です。

正子が収集した壺にみずから花をいけ、それを写真家の藤森武が撮影した『花日記』（世界文化社刊）という本があります。初版は1998年。私が持っているのは2010年発行十四刷とありますからいぶん売れている本です。その中で、菜の花を鉢にいけた写真があります。鉢の説明にこうあります。「鉢は以前、松永安左衛門所有。内も外も鑿（のみ）の跡が美しい」とありますから、木製の鉢なのでしょう。

土門拳の直弟子で写真家・藤森武が撮ったとはいえ、残念ながら写真では、手ざわりはわかりません。もっとも実物を見ても、私にはその美しさを見わけける目はありませんが。

なによりも驚きは、松永安左衛門所有だった鉢が、めぐり巡って白洲正子の手もとにあるということです。電力の鬼とよばれた安左衛門もまた、美術品・茶道具のコレクターとして有名でした。

もしかしたら、すぐれた道具というのは、そう多くはないのかもしれない。銘品は、物を見抜く力のある人の間を往き来して、長い年月を生きるのでしょうか。人も、そんな道具のように生きられたいと思うのです。

平林寺と東京国立博物館庭園
昭和の大実業家の遺構をたずねて
（松永安左衛門翁ゆかりの地を巡る）

咲きかけた桜を追いかけて。お花見日帰りバス旅行

3/28（土）

午前7時45分 松岩寺発

平林寺～東京国立博物館～昼食～午後3時頃解散

参加費 1万円／1人 募集人員 若干名

お正月に、日帰りバス旅行のお誘いをしました。三月二十八日に新座市の平林寺と東京国立博物館にある松永安左衛門の遺構を訪ねる半日のお散歩です。

参加申込みの締め切りは一月末でした。二十名の方が参加予定です。あと五名ほどバスの座席に余裕がありますので、締め切り期日を過ぎてまいすが、一緒にできます。電話で良いですから、申込みください。

さて、この企画のタイトルが悪かったと反省しています。だって、「松永安左衛門ゆかりの地を巡る」なんて言われたって、知っている人は知っているけれど知らない人にとって「誰、それ」というふうになってしまいます。だから、「お花見・バス旅行」なんてタイトルにしたら、もう少し反応がよかったかも。中味は同じでも、キャッチフレーズによって印象はちがうものです。

ところで、この企画の準備を始めたのは、昨年の一月初めです。苦労したのは昼食の予約でした。博物館の近くには、明治時代からの歴史ある飲食店がいくつかあります。その中で「韻松亭」という洒落た茶店があります。

そこを予約しようと電話をしました。上野公園が都内で有数の花見の名所といっても、四か月も先のことです。ところが、「花見の期間のご予約は一月三日の午前十一時から電話予約を受けます。電話がかかりにくくなりますがご容赦ください」とのこと。人気タレントのコンサート・チケットの争奪と同様です。それでは不安なので、別のS軒に電話しました。すると、すでにグループ用には満席とのこと。一月三日の韻松亭の電話予約に賭けるしかありません。

明けて本年一月三日午前十一時。祈祷法要の後片付けも途中で、電話にかじりつきました。家の者の携帯からもかけてもらいます。何度かけてもお話中です。諦めかけた十一時半頃、息子のスマホから通話成功。私が変わって詳しい相談をしていると突然に通話が切れた。スマホなんて初めての私が変わるボタンを押してしまったようです。再度かけ直して奇跡的につながって予約完了といった次第です。花見の時期のプラチナチケットで、「上野公園にこんな所が」、と驚くような場所です。ご期待ください。